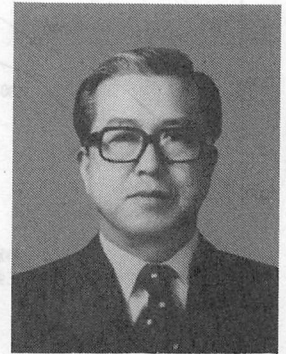


■ 巻頭言 ■

創立 5 周年を迎えて

エネルギー・資源研究会会長
京都大学名誉教授

水 科 篤 郎



本会も昭和 55 年創立以来、本年で 5 周年を迎えようと致しております。当初から発展をつづけ、半人前ながら、充分社会的に存在意義のある団体として成長致しました。これはひとえに会員の皆様の御支持と御尽力によるものと感謝致しております。

創立以来の正会員数ののびと特別会員の口数の増加の様子を図-1に示します。ごらんの通り、初年度をのぞき、過去 3 年間の増加率は、正会員 85 %/3 年、特別会員 48 %/3 年でございます。私としましては、当面の目標を正会員 3,000 名と致したいと考えておりますが、これを達成するためには、更に会員の皆様の御協力をお願いしなければなりません。何卒よろしくお願い申し上げます。

また本会は産学官の協力を標榜しております。表 1 に創立以来の正会員の産学官の分布を示します。官には公共団体を含んでおります。かつこの中には特別会員 1 口を正会員 10 人として、加算補正した数字を示しております。大体よくバランスがとれている様に思います。

次に地域別の正会員の分布の遷移を表 2 に示します。これを見ますと、会員の分布はやはり関東、関西に集中しており、その他の地域の今後の増強が望まれます。

さて、エネルギーショック以来、急激に過熱したエネルギー問題重視の傾向も、少しく石油の価格が落ち着きますと、いささか醒めて来た気配が感じられます。特に米国ではエネルギー問題では NSF 等からの研究費は得られ難くなっていると聞きます。喉もと過ぎれば熱さを忘れるのは人間の性であり、アメリカが風邪をひけば、日本がくしゃみするという関係とはいえ、米国と日本ではエネルギー事情が全く異なります。とくかく米国は石油・石炭を持っており、しかもこれらはメジャー資本でコントロールされています。ある点までエネルギー価格が下ると、これらを使わなければならなくなるのは当然のなりゆきでしょう。これに反し、ほとんどエネルギー資源を持たない我国としては、エネルギー問題は永遠の問題であります。いつも申しております様に、エネルギー事情が一応安定している現在こそ、落着いてエネルギー問題を論じ、将来に備えるよい機会ですから、本会の役割は益々重要になって来ていると信じます。

原子力および石炭等の主力代替エネルギーは勿論のこと、補助的なエネルギーについても充分議論を尽し、国民的合意の上に将来のエネルギーシステムの設計を行わなければなりません。この際、

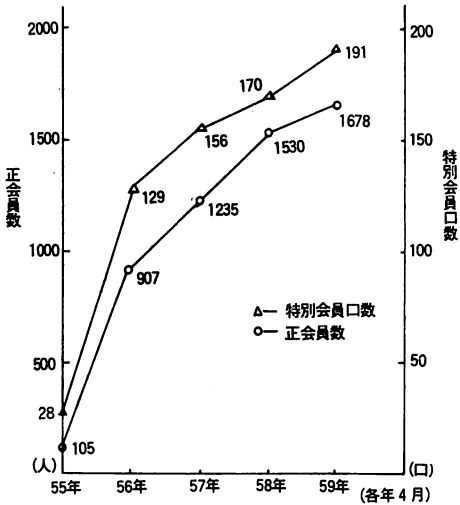


図-1 エネルギー・資源研究会会員数推移

固濁しつつある石油は航空機、自動車等の液体燃料として使用する以外は、燃やすべきではなく、資源として温存し、化学原料として用いるべきであるという意見についても論議を重ねていただきたいと存じます。水素と炭素が結合している石油は、化学合成原料として最適ですが、これを炭素と水素から合成しようとする、莫大なエネルギーを要し、これを燃やせば、単に二酸化炭素と水蒸気になってしまうわけですから勿体ない話です。

またエネルギー源を化石燃料にするか、原子力にするかの問題も深刻です。片や二酸化炭素の問題、片や放射性廃棄物の問題で、どちらを優先するかは、なかなか決定できない問題です。

こう考えますと資源・エネルギー問題解決のもう一つの柱である、省資源・省エネルギーは更におし進める必要があります。資源・エネルギー問題の解決の一助になるばかりでなく、子孫のために貴重な資源を温存することにもなるからです。我国の産業界はかなり限度近くまで、省資源・省エネルギーの技術を発展させて来たと思いますが、未だ研究する余地はあるでしょう。更に民生用はまだまだやる事が残されていると思います。

以上平常申しあげている所懐を要約して5周年のご挨拶と致します。

表1 エネルギー・資源研究会会員構成
(産・学・官別)

(単位:人)

各年4月	55年	56年	57年	58年	59年
産	24 (304)	187 (1477)	358 (1918)	643 (2343)	708 (2618)
学	63	678	815	803	869
官	18	42	62	84	101
合計	105 (385)	907 (2197)	1235 (2795)	1530 (3230)	1678 (3588)

(註) () 内数字は特別会員1口を正会員10名分と換算して加算したもの。

表2 エネルギー・資源研究会正会員地域分布

(単位:人)

各年4月	55年	56年	57年	58年	59年
北海道	4	16	27	32	35
東北	6	58	91	104	107
関東	33	294	446	583	648
信越	2	12	15	18	22
北陸	2	21	29	34	40
東海	8	73	99	124	136
近畿	38	283	347	419	458
中国	3	40	51	66	71
四国	2	9	17	19	20
九州	7	99	110	127	136
海外	0	2	3	4	5
合計	105	907	1235	1530	1678